

「保護者のための就職説明会」におけるご質問に対する 大学キャリア支援室よりの回答

◆第1部に関するご質問

Q. 企業セミナーの日程を教えてください。

A. 別紙「今後の就職ガイダンス/セミナー」を確認ください。

Q. 院進、企業、公務員の選択はいつまで迷っていられますか。

Q. 院進、企業、公務員、まだ決まりません。間に合いますか？今すべきことはなんですか？

A. 大学院進学、民間または公務員就職を同時並行で取組むことは不可能ではありません。

しかし、3年生の春頃には公務員試験に向けた公務員講座(予備校等)に通い始める学生が多くいますし、3年生の6月には民間企業のインターンシップへの応募・選考が始まります。可能であれば、3年生になるまでに何を優先して取り組むのか？を明確にした方が良いと思います。

Q. 公務員と民間企業はどちらかに決めて就職活動した方がよいでしょうか。

Q. 公務員を目指しながら、一般企業への就活も可能なのでしょうか。

Q. 公務員を志望しているようですが、企業就職活動もしていた方がよいのでしょうか。

A. 民間企業への就職活動と公務員試験の両立は大変忙しいとは思いますが、並行して取り組むことも可能です。

民間企業への就職活動(業界・企業研究等含む)に取り組むことで、公務員と民間企業の比較ができ、公務員志望理由(公務員になってやりたいこと、公務員でないといけないこと)をしっかりと語るができるようになるケースもある、と助言しています。

Q. 大阪公立大学移行後も支援室の体制、サポートは変わらないのでしょうか。

A. 大阪市立大学と大阪府立大学のキャリア支援体制は現状を維持しつつ、両大学が実施する支援の良い点が継承できるように取り組んでいきます。

Q. ワクチン接種の有無が就職に影響することはありますか。

A. ワクチン接種は本人の接種意思を尊重するものであり、企業が採用選考において接種有無を確認することはありません。また、その様な事例は、現時点では確認されていません。

Q. 就職にあたり部活動をしていることは有利になりますか。

A. 一概には言えません。部活動で企業が求めている能力が身に付けられる可能性はありますが、部活動でなければ身に付けられないわけではないと思います。

Q. 文学部の就職率が一番低い理由はなにがありますか。

A. 教員志望の学生が、希望する地域の希望する学校での就職を目指し、就職浪人することや

学生時代に長期海外留学し、卒業後に就職活動する学生もいたりすることで就職率が低くなる傾向があります。

Q. 大学院の工学部に進学予定です。院に進む場合、3 回生でインターンシップに行かれる方は多いのでしょうか。

A. 大学院進学を希望する大学 3 年生は、あまりインターンシップに参加していません。

Q. 万が一留年した場合、やはり不利なのでしょうか。

A. 一概には言えませんが、留年した理由と留年して学んだことが面接等で聞かれる可能性がありますので、適切に説明できるようにしておく必要があります。

Q. 進学と就職で悩んでいます。就職活動した方がよいですか。

A. 一概には判断できません。個別に指導教員またはキャリア支援室に相談に来ていただければ、助言等ができるかと思います。

Q. 工学部で院に進学しない学生の就職支援などの資料や説明はありますか。

A. 特別な資料はありませんが、他学部の学生と同様にキャリア支援室で支援することに加え、工学部の就職指導担当教員からも指導があります。

Q. 大学へ足を向けることがなくなっている状況が続いていますので、オンラインでキャリア支援室への質問がしにくくなっているような気がします。キャリア支援室から学生へ利用を呼びかけるようなことはされているのでしょうか。

A. 学生に対しては、オンライン(ユニパの掲示場、Twitter 等)だけでなく、自宅への郵送、指導教員を通じての告知と様々なチャンネルを活用して学生に利用を呼び掛けています。

Q. 大阪市立大の学生を欲しがっている企業名をもう一度教えてください。

A. 大阪市立大学の学生を積極的に採用したいと学内のセミナーに参加してくれる企業は、2020 年度には 567 社ありました。2021 年度も 10 月から開催される「業界・企業研究/OB・OG 交流オンラインセミナー」には、学生にも人気の高い企業からも参加申し込みがあります。その他、求人票受付システムを通じて、年間 13,000 件以上の求人票が大阪市立大学に届きます。

※別紙「業界・企業研究 OBOG 交流オンラインセミナー参加企業一覧」を確認ください。

Q. 例年、インターンシップから本選考、就職につながる率はどれくらいあるのでしょうか。

A. インターンシップに参加した学生と本選考から採用になる学生の就職率は一般的にも公開されているものではありません。また、各企業によりバラツキがあります。しかし、インターンシップでの経験は、本選考にも役立つと考えられていますので、可能であれば参加して欲しい

いと考えています。

Q. 3月までにインターンシップに参加していたほうが有利なのでしょうか(3回生文系)

A. 一概に判断できません。3年生6月にはインターンシップや1日職業体験などの就職活動を意識した企業によるイベント等が開催されています。こちらも各企業に応募して選考を受けることとなりますので、就職活動に必要なことを経験できるという意味では参加されると良いかもしれません。

Q. 子供が下宿していますが、地元での就職の支援(情報提供やアドバイスなど)は学校ではありますか。

A. U・I・Jターン就職を希望する学生向けの就職活動支援を強化するために全国14大学と「就職支援パートナーシップ制度」を締結し、参加しているパートナー大学でも就職支援(情報提供、個別相談等)が受けられ体制を構築しています。

Q. 大学院理系の推薦状況は今と昔でどのくらい変化していますか。

A. 専門性の高い理系分野では、いまでも推薦応募はあります。しかし、昔より自由応募による就職活動が一般的となり減少傾向にあります。

Q. 就職後の離職率や企業選択と本人のマッチングについて聞きたいです。

Q. 就職後の離職率の現状はどのような感じでしょうか。企業と学生のマッチングについて、どのようなアドバイスや支援いただいているか教えていただきたいです。

A. 大卒者の就職後3年以内の離職率については、一般的に3割と言われています。学生には、しっかり自己分析し、業界・企業研究したうえで企業を選んで就職するようにアドバイスしています。

Q. 院進したら院1年の夏から動き出す、ということでしょうか。

A. 就職を希望されるのであれば、大学院の前期博士課程1年生の春からインターンシップに向けた準備をすることになります。

◆第3部に関する質問

Q. OB・OG訪問とは別に、学生が人事採用担当の人に連絡を取りコンタクトをとるのはよいのでしょうか。

A. 一概に判断はできませんが、求人内容の確認や選考等に関する事務連絡で学生が人事担当者に連絡することは就職活動中に良くあることです。自己アピールで人事採用担当に連絡することの良し悪しは、一概に判断できません。

Q. 2回生にできることはありますか。

A. まずは、学業・学生生活を充実させることが一番かと思います。また可能であれば、2年生3月頃には、進路の方向性(大学院進学、民間就職、公務員就職)を決めることができる程度に自己分析や業界研究をしておくことが必要かと思います。

Q. 公務員志望者は、4回生春くらいまでは、とにかく筆記試験対策でいいでしょうか。公務員のインターンシップはありますか。

A. 公務員志望者は、筆記試験対策とともに面接対策が必要になります。開始する時期については、各個人の状況にもより、一概に言えませんが、面接が重視される傾向もありますので、自己分析、業界・職種研究等も並行する必要があると思います。また、公務員のインターンシップは、1年生から応募することが可能です。

Q. TOEICのような資格の重要度はどのくらいですか。

A. 学生が書類選考や面接でアピールできるように、エントリーシートや履歴書には保有している資格を書く欄があります。企業が求める資格の有無は書く必要がありますし、自分がアピールしたい能力に関する資格があれば書くことは良いことだと思います。しかし、どの資格が良いのか？という点については、志望する業界・企業により異なります。

Q. 先程内定された学生さんの中で推薦での内定は理系の学生さんでしたが、文系での企業推薦はあるのでしょうか。

A. 文系の大学推薦は基本的にありません。

以上